

「グリーン・ウォール」の創生  
グヌングデ・パングランゴ国立公園  
住民参加型森林再生プロジェクト

現地からのお便り（2011年1月－3月）

2011年4月6日  
コンサベーション・インターナショナル

---

森林再生事業の進捗

これまでに、8万本の自生種の苗が200ヘクタールに植えられました。それらに加えて、果樹が植えられています。植えられた苗がきちんと育つよう、農家グループと国立公園スタッフと一緒に定期的に植林地を見回り、手入れを続けています。生育に成功しなかった苗を見つけたときは、新しい苗に植え替えています。



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

国立公園レンジャーの仕事

国立公園レンジャーは、国立公園を守る警察官です。地元コミュニティの人たちと一緒に国立公園を見回り、国立公園の動物、植物、その他の資源を守っています。広い国立公園の見回りにはとても時間がかかるので、野外のテントで夜を過ごすこともあります。

グヌングデの野生動物にとって、密猟は、大きな脅威です。密猟者は、掘っ立て小屋を作り、罠を仕掛けて動物が掛かるのを待ちかまえます。主に捕まえているのは、鳥や小さな哺乳類。レンジャー達は、掘っ立て小屋を見つけて撤去し、悪質な場合には、警察と協力して再発を防止します。



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

違法伐採や森林火災は、グヌングデの森を減らす大きな原因です。

レンジャー達は、国立公園の森林を歩き、伐採した薪や木材を運ぶ人たちや火を使っている人たちを見つけると、国立公園内の伐採や火の利用が禁じられていることを教えます。特に乾期には、火が森林に燃え移り、広大な面積の森林を消失させる可能性があるため、火が小さいうちに見つけて消すことは大事です。

地元の人たちが薪を採るのは煮炊きのため。そして、農家が火を使うのは、生えている草木を焼き、農地を広げるためです。薪を国立公園の森から採らなくても生活できるよう、また、土地を劣化させずに同じ場所で農業が続けられるよう、レンジャー達の活動を補う、さまざまな協力が必要です。



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

## 苗畑の管理

自生種の苗を育てるための苗畑の修理を行いました。苗畑の骨組みには地元で取れる竹を使っているため、定期的に取り替える必要があります。

プロジェクトでは、苗畑を作り、管理するとともに、苗を育てるためのトレーニングを

提供してきました。農家の中には、隣接する森で小さな芽生えをていねいに掘り起こしてきて、苗畑で育て始めた人もいます。



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

### プロジェクトがお手本に

プロジェクトの大きな成果の一つは、地元政府が私たちの実施してきた植林活動を近隣地域にも広めようとしていることです。この地域には、植林活動を必要とする場所がたくさんあります。成功例をつくり、それを見た人たちが成功例をお手本として別の場所で取組みを始めることで、森林再生の取組みを拡げることができます。地元政府は、集落の周りに木を植えるため、政府関係機関や学校に苗の提供を始めました。



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

※画像および文章の無断転用はご遠慮下さい。